



2014療育ねとわーく川崎 映画会報告

（療育ねとわーく川崎 事務局長）前田龍郎
療育ねとわーく川崎では、9月3日（水）に、多摩市民館にて映画会を開催いたしました。

障害児・者本人・家族や直接関係者の方々に、広く一般や小中高生に対する理解を深めるとともに障害児・者の社会参加の一助につなげたいと考えて、ここ3年連続で実施しています。尚、この映画会実施に趣旨ご理解頂いた【川崎市】より後援頂いています。

夏休み明けの実施ということもあり、7月中旬から、県立・市立の特別支援学校をはじめ、療育センター、

こんにちは。あつという間に9月です。暑い、暑いと言っていたのに、気づいたら結構涼しいんですね。秋も短いんですかねえ？

7月下旬、ヘルパーさんと電動で箱根へ行ってきました。去年も電動で湯本まで行ったのですが、時間もなかつたのでその先には行きませんでした。以前母と登山鉄道には電動で乗ったので、大丈夫だ、その先も行きそうだというのもその時に分かっていました。次に行く時は、その先まで行くぞ！ そう思っていました。

当日、朝から良い天気。

今回の目的は、登山鉄道の先まで行く事！ さあ、どこまで行けるんだらう？ 電動で行くと、時間がかかるからなあー。と思いつつ出発しました。湯本まで長い長い。本当に乗りごたえがあります。湯本でまずトイレ。広いし、とてもやりやすいです。もちろんベットもありますよ。

いよいよ登山鉄道！ ヘルパーさんと乗るのは初めてです。久々というもあり、ワクワク。緑の中を進んで行く、とっても気持ち良かったです。強羅に到着。ここにも多目的トイレがあり、本当にありがたいで

明日香のたまてばこ



す。ついにケーブルカー！ ここからは本当に初体験。乗り場を見たら、普通段差の所がスロープになっていました。なるほどね。ケーブルカーとホームの間にいつものスロープをかけてもらい、問題なく乗車。中にも車いすスペースがあり、とても良かったです。乗れるらしいとは聞いてたけど、本当に電動で乗っちゃったよ！ 大興奮でした。10分足らずで到着。あつという間でした。ケーブルから上上がるのにリフターがあり、それで上げてもらいました。良く考えられているなと感心しました。とてもありがたかったです。

早雲山に初めて降り立ち、わーいと思いきや、駐車場と見晴台があるだけで何もありません。ええー！ー！大涌谷まで登らないとだめなのねと、初めて判明したのです。そこでお昼を食べ、ロープウェイはまた今度にしました。電動でここまで行けて、本当に大満足です。今度は大涌谷まで行くぞ！！

鈴木明日香

ロンドン・ロンドン

佐光子さん（〇担当）

職員、学校（特別支援校も含め）や特別支援学級の担任に是非みて貰いたいと痛感。（障害者施設勤務）

〇祐二君の感性の豊かさ、すんだ目（心に心打られました。映画会を終わった後の貞未さん、お母さん、先生の話が、すごく心にストーンと入ってきました。とても素晴らしい映画でした。お母さんが、祐二君を普通に育てた事（大変だったと思うが）に感銘を受けました。（療ねひろば）

〇沖繩のきれいな海や自然と重なって、とても暖かい気持ちと祐二さんの子育ての流れや大変だった事お母さんの話、お兄さんの気持ちに涙でした。祐二さんの、笑顔と写真に、元気をもらいました。私には、重心の娘がいますが、また、気持ち新たに向き合えそうです。有難うございました。特に、お母さんステキでした。（会員 利用者家族）

〇親の頑張りがとてもすごいと思いましたが、米田祐二さんの映画を見て、本人のお話も聞けて、芸能人に会った気分でした。私の子は、今4歳ですが、祐二さんを見て未来は明るい！と希望を持ちました。人との出会いって素晴らしいですね。私も家に籠ってばかりじゃなく、外に出なきゃと思えました。（一般ご来場）

〇一言「感動」です。何も言えない。こんな事があるの？と同じ母親として情けなく思いました。子供の未来の為に、動かなければいけないのだ。休んでられないよ」と思いました。今日は言葉

生活介護施設などの通所先 55ヶ所
市内全ての福祉パル、相談支援センター（基幹型・地域型）、関係する役所部門などに告知ポスターやチラシなどをお配りしました。

8月29日付けタウンニュースでも記事として取り上げて頂きました。

『ぼくは写真で世界とつながる』
発達障害を生きたとは？

自閉症と呼ばれるアマチュア写真家米田祐二さんの沖繩の旅と、その旅を支えた人たちやご家族の、深くあつたかゝい声をおさめた映画です。

◇ご参加者：午前の部 会員・ロンドン関係60名 一般来場30名 計90名
午後の部 会員・ロンドン関係19名 一般来場24名 計43名

『普通に生きる』
静岡県富士市で、重症心身障害児者のための生活介護施設を「福祉の受け手から担い手となる」発想の下、親たちがゼロから立ち上げたドキュメンタリー映画です。

◇ご参加者：夜の部 会員・ロンドン関係12名 一般語来場42名 計54名

【映画会の感想から】
〇子供が小さい頃の、子育ての様子も同じだったな〜と感じつつ思い出しました。お兄さんの、兄弟としての小さい

GDPかわさきとしての 第4次のマライゼーション ヒアリングのまとめ

GDPかわさきとして、第4次のマライゼーションヒアリングを振り返り、次のようにまとめてみました。

◎GDPかわさきから当事者側の声（意見）として具体的に質問や意見を出しても、役所側は大枠の制度や課題についての回答であった。当事者にとっては、大雑把な返答をするだけの印象があった。役所側の主な

返答の仕方としては、自分達が考えている第4次ノーマライゼーションプランの5つの柱について説明するのみで、当事者側から出された問題等に対して具体的な対応策は出されなかった。

◎役所側は、当事者側からの意見をある程度想定して返答してくるの
で、意見を言う当事者側も、できれば事前に役所側に訴えたいことを、重要度・緊急度の高いものを選びま



とめておく必要がある。また、訴える内容についても、ヒアリングに参加する当事者側が、他の当事者団体と同じ課題を訴え、事前にどれだけ困っている

のか調査し、数値を出して具体的に訴えるほうが効果的だと思われる。訴える側は、決して感情的にならずに、事実として困っている内容を具現化していくこと。課題について、団体ヒアリング等で訴えるだけで終わらせず、仮に新たに変えてくれることを約束してもらえた場合も、自分達が訴えたことが実際に変更・実行されているのか当事者側がリサーチしていくことも重要である。

◎以前までの団体ヒアリング自体は、当事者側が会場に向く形だったのが変わり、役所側が向く形に変化しているところを考えれば、前進はしている。少しずつであっても役所側（行政側）の姿勢を変えるために、当事者側は声を上げて訴え続ける必要があり、役所側の人に訴え続けることで、当事者側の声に耳を傾けて訴えた課題について、良く変えていこうと協力してくれる人がいるかもしれない。役所側に当事者側の現状を知ってもらうことを含めて、団体ヒアリング等のお互いに対立の印象がある時だけではなく、関係を継続的に維持していく機会が

あったら良いという意見に集中した。具体的には、イベント開催時や勉強会の時などに役所の職員に仕事（派遣依頼という形で）として参加してもらおう事も良いのではという案が出る。

以上のような形でまとめてみました。最も重要なことは、行政側に「私たちは常にみているですよ!」を、意識してもらおうように発信し続けるということかな、と思っています。

GDPのイベント報告

GDPかわさきは普通の施設とは違って自分が来たい時に来られる場所です。でも昼食会や何処かに出かけて行く事も有るので来られない時には連絡を入れてほしいなと思います。GDPの、良さは、スタッフもメンバーさんも、ないところだと思います。誰でも一人では寂しいし一人では生きられないと思っっているのですが、そんな時に仲間がいたりすると気持ちも休まると思います。GDPかわさきを、そんな皆さんが集まって、居心地の良い場所にしていきませんか？（松浦）